



健育会グループのテーマは「人の尊厳は皆、平等である」

医療法人社団 健育会 理事長 竹川 節男



「人の尊厳は皆、平等である」というこの言葉は、健育会全職員の哲学です。

日頃から、私が常に皆さんにお話ししている「人間の尊厳は平等である」という考えは、
どのような患者さん、ご利用者もその人らしく人生を過ごすことであり、その人の意思を尊重し、その人らしく
過ごせる環境を提供することが我々、医療人としての使命であると思っています。
日々の医療や業務の中で、私たち一人ひとりが立ち返る共通の視点として、常に意識する考え方です。

私はこれまで、長年にわたり医療の現場に身を置く中で、
患者さんと向き合い、家族の思いに触れ、そして多くの職員と共に働く中で、「人の尊厳は皆、平等である」と
いう思いを、医療を通じて強く抱き続けてきました。
人は、病気の種類や重さ、年齢や背景、立場の違いによって、尊重の度合いが変わることはありません。
医療に携わる私たちは、その事実を誰よりも深く理解していかなければならないと、私は考えています。

医療の現場には、さまざまな立場の人々が関わっています。
患者さん、ご家族、地域の方々、そして医師、看護師、セラピスト、医療技術職、事務職、委託スタッフを含む
すべての仲間。役割や立場、経験の違いはあっても、そこに優劣があるわけではありません。

「人の尊厳は皆、平等である」というテーマは、
目の前の人を、先入観や思い込みで判断していないか。忙しさを理由に、誰かの声を置き去りにしていないか。
その問いを、私たち自身に投げかけるものです。



このテーマを、言葉として掲げるだけで終わらせないために、
本年は各病院・各施設において、本テーマを記したポスターを掲示します。
ポスターは、患者さんに向けたメッセージであると同時に、
私たち職員一人ひとりが、日々の業務の中でふと目にし、立ち止まり、考えるためのものです。

診療の合間に、廊下で、スタッフルームで、
「この対応は、本当に“人の尊厳は皆、平等である”と言えるだろうか」
そう自問するきっかけになればと考えています。

一年を通して、このテーマをそれぞれの現場でどう受け止め、どう行動につなげるか。
その答えは一つではありません。
だからこそ、各病院・施設、そして一人ひとりが、自らの業務や立場に照らして考え、実践していくことに意味
があります。

「人の尊厳は皆、平等である」というテーマのもと、互いを尊重し、声に耳を傾け、百人いれば百通りの方法で
患者さんの尊厳を大切にしながら、医療従事者としての使命感を持って、より良い医療と環境を築く医療人として成長してほしいと思います。

このテーマが、日々の小さな行動の積み重ねとして、
患者さん、ご利用者の安心につながり、そして仲間同士の信頼につながっていくことを
期待しています。